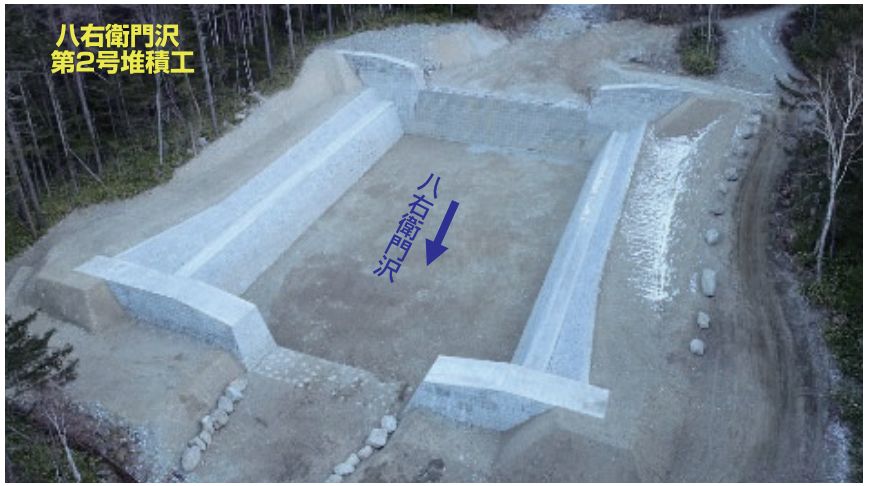
■八右衛門沢第2号堆積工

信濃川上流の梓川にある上高地は、槍・穂高連峰を中心とした山々に囲まれ、山深く開けた梓川の峡谷からなる、我が国屈指の山岳景勝地であります。周囲の山々の地質は、浸食や風化作用から土砂流出が激しく、ひとたび豪雨になれば、支川から多くの土砂が流出し、道路が寸断され観光客が孤立する事態が度々発生しています。なかでも霞沢岳を源にする八右衛門沢は昭和54年の豪雨では土石流により県道が寸断され、流出土砂が集団施設地区(ホテル)まで到達する被害が発生し、観光客が孤立する事態となりました。

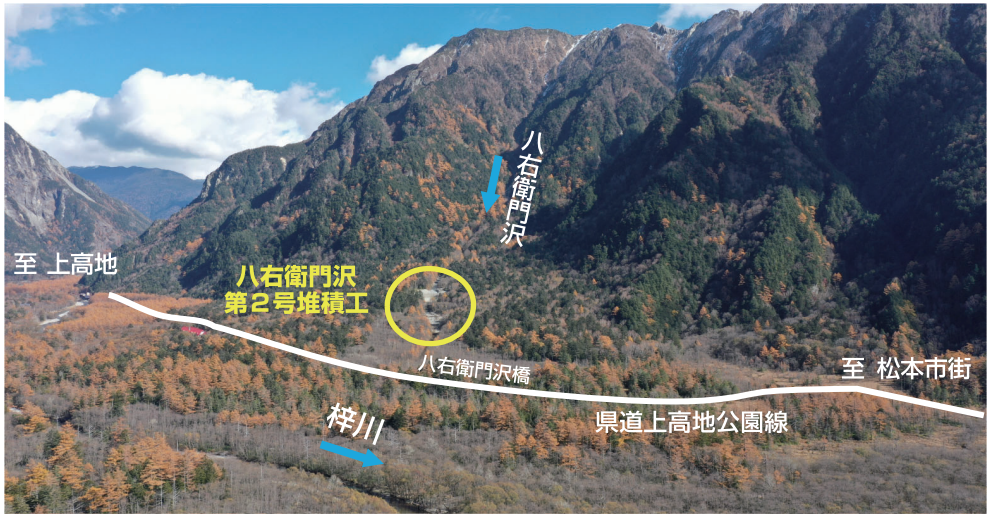
このため昭和62年より土石流対策として砂防施設の整備を行ってきました。これまでに、A型スリット、床固工(導流堤)、底面スクリーンなどの施設を組み合わせて土石流対策を実施してきました。さらに土砂捕捉工として、床固工と土砂堆積エリアを組み合わせた“堆積工”により約3,600m3の土砂を捕捉することが可能となりました。令和元年の完成直後、8月29日の豪雨により発生した土石流は捕捉され、上高地及び岐阜県高山市と松本市街地をつなぐ重要な路線である県道上高地公園線の被災を防止しました。



八右衛門沢第2号堆積工全景

豪雨により県道が土石流によって寸断され、観光客が孤立。(昭和54年)

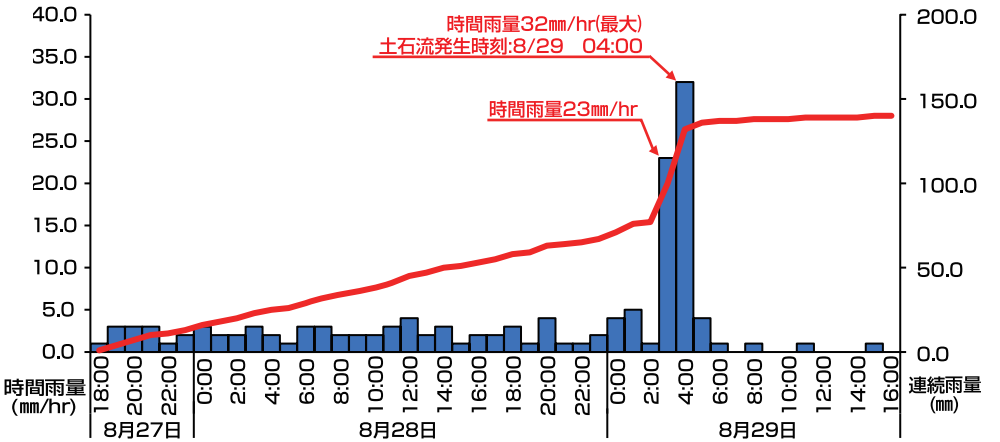
土石流により取り残された車両が埋没した。(平成14年7月)



八右衛門沢第2号堆積工と県道上高地公園線

土砂流出の捕捉状況

被災前　令和元年8月9日

被災後　令和元年8月29日

雨量状況と土石流の関係（八右衛門沢雨量観測所　令和元年8月27日～29日）